くらしは文化 no.62

宮城県気仙沼市

風待ち地区（かざま）国登録有形文化財群

Kazamachi District
Nationally Registered Tangible Cultural Properties

ふるさとの風景を明日へ、災害を超え受け継がれる建物群

宮城県気仙沼市の内湾地区（風待ち地区）はかつて繰り返し大災害に見舞われてきたが、その度に再建され、歴史的な町並みを形成する近代建築が受け継がれている。6軒が国登録有形文化財だが東日本大震災で被災。人々の理解と支援のもと、再建が進む。

©気仙沼風待ち復興検討会

Otokoyama Headquarters

男山本店店舗（再建中）

大正元（1912）年創業の酒店。昭和6年頃、建設。木造。モルタル、自然石洗出仕上。
古典様式風の洋風3階建で内部には和室もある。2、3階は上げ下げ窓。王冠を模したパラペットの装飾が沖の船からも見えたという。写真は被災前の姿。

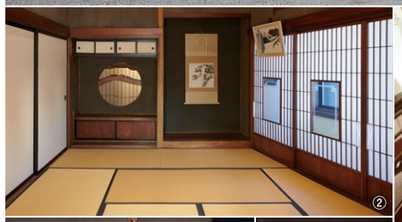
Cida House

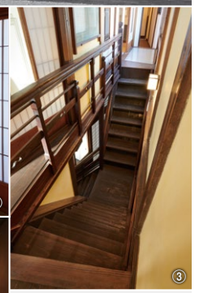
千田家住宅（再建中）

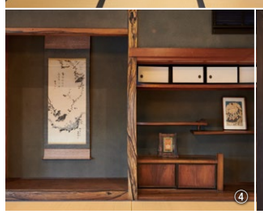
建設者（前所有者）は建設資材問屋とされる。昭和5年頃、建設。木造モルタル塗。
交差点に円弧状の外壁を見せて建つ。丸窓や、3階のパラペットの上まで伸びる煙突状の出窓から、船をイメージしたデザインともいわれる。

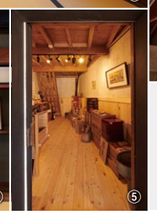
Takeyama Rice Store

武山米店店舗





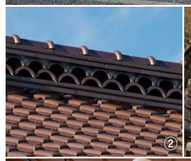


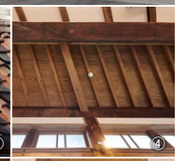


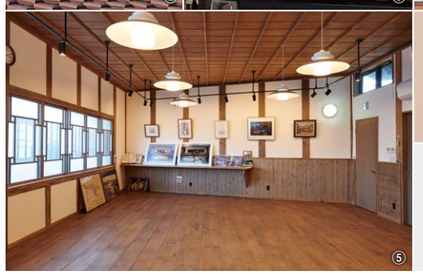
現在地での創業は明治33（1900）年。昭和5年、建設。平成30年、再建。出し桁造。
①被災前の間口は正面4間、最奥1間の扇状。末広がりで縁起の良い家相とされる。再建に際し蔵前にあった主屋を左へ移設。②2階。右奥の畳の形で和室が長方形でないことが分かる。③振り分け階段。2階の2室への行き来をスムーズにする工夫。④2階。黒柿の床柱が素晴らしい。⑤現在、蔵の中は「炊飯博物館」になっている。

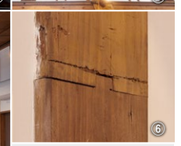
Kakuboshi Store

角星店舗









明治39年創業の酒店。昭和5年頃、建設。平成28年、再建。塗り家造。
①被災後、がれきの中から清酒「両國」の銘板が発見され復旧、店のシンボルに。②気仙沼の伝統的意匠である青海波で飾られた棟。③斜めに葺かれた丸瓦。下屋は元の赤瓦を集めて復元。赤瓦は花巻製と判明した。④斜めに伸びる化粧垂木。⑤2階の部屋も変形した四角形。⑥金輪継による柱の修繕。

Sanji-do Sasaki Store

三事堂ささ木店舗

明治41年創業の陶器店。大正中期、建設。平成29年、修復完了。
風待ち地区では数少ない昭和の大火前の建物。
なまこ壁を回した土蔵と窓のペディメント風装飾に特徴がある擬洋風の店舗が並び、和洋折衷の趣。左官の仕事が光る。

Onoken Store Storehouse

小野健商店土蔵

魚問屋。現在地での創業は大正5年。昭和21年頃、建設。平成29年、修復完了。
船の竜骨を使用して建てられた。気仙沼の伝統的な黒漆喰仕上げの扉に気仙大工のこて絵が残る。なまこ壁の目地が太いのも特徴。

三陸沖の好漁場に近接する気仙沼湾。その最奥に面する風待ち地区は、漁船が出港に適した風を待ったことが名前の由来といい、海との関わりを通して栄えてきた。その歴史の中で大正4（1915）年と昭和4（1929）年には大火が発生、地区の大部分が焼失した。
昭和4年の大火後は、大工や左官など大勢の職人が結集して店舗や土蔵を建て、わずか1年半ほどで地区の大半が復旧。昭和初期という時代を反映し、伝統工法に加えて洋風の工法・資材を用いたモダンな建物も造られ、魅力ある町並みが形成された。
昭和の大火後に建設された武山米店店舗は、前面道路に向かって末広がりになった不整形地に、禅宗様でみられる扇垂木を採用して建てられている。非常に手間がかかり技量の高さが伺われるもので、扇垂木は近隣を拠点として活躍した気仙大工の特筆すべき技術の一つであったことから、気仙大工か、その影響を受けた者の仕事と推測されている。大火後、資金・資材が不足したなかでの再建でありながら、立派な木材を随所に使用している点も目を引く。
角星本店店舗も不整形地に建ち、垂木やせがい梁が斜めに伸び、丸瓦も斜めに葺かれている。
不整形地の成立は地形的制約や町割りの影響とされるが、大工は技術を駆使して、その敷地なりに建物を建て、店々のファサードを連続させるなどの工夫をしたと考えられている。
平成23（2011）年の東日本大震災では、これら2棟を含む6棟の国登録有形文化財も大きな被害を受けた。多くの人々の理解と支援で内4棟の再建・修復が完了。現在、男山本店店舗や千田家住宅が再建を待つ状況にある。再三の大災害から力強く立ち上がった風待ち地区に歴史的な町並みが戻る日が待たれる。

取材:2019年12月

気仙沼湾には風待ち地区を通って船出に適した北西風が集まるという。

用語説明

【出し桁造】梁や腕木を外壁の柱より突き出し、その先端に桁を出した構造。軒が深くなり商家では格の高さを表した。
【禅宗様】鎌倉時代に禅宗とともに宋から伝えられた寺院建築様式のひとつ。唐様ともいう。
【扇垂木】放射状に配置された垂木。
【気仙大工】近世、岩手県気仙地方で発祥した大工や左官等の職人集団。技術の高さで知られた。
【せがい梁】出し桁造の梁。和船の両舷に渡した板「船榿（せがい）」に似ることに由来する名前。
【金輪継】木造建築で柱などの部材と部材を継ぐ伝統的な技法の一種。
【ペディメント】窓や扉の上などに設けられた三角形状の装飾部分。

協力:気仙沼市教育委員会、一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会、株式会社ユー・エス・シー、有限会社ササキ設計、株式会社マヌ都市建築研究所

くらしは文化 バックナンバー